

春の生きものの確認結果について

1. 生きものの概要

文京区生物多様性地域戦略で掲げている基本目標 I 「『生物多様性』を身近なものとしての理解と浸透・定着を図る」の実現のため、区内の生きものの生息状況を定期的に把握する取組として、春季の生きものの現地確認を行いました。

2. 生きものの確認結果の概要

春の生きものの確認結果は下表のとおりです。

<春の生きものの確認結果>

<p>季節的な生きもの</p>	<p>オオスズメバチ (女王蜂)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・スズメバチの仲間は女王蜂だけが越冬します。 ・春になると越冬から目覚めた女王蜂が新たな巣を作るために単独で活動します。 	<p>シジュウカラ (幼鳥)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・シジュウカラは4月～5月上旬に子育てをします。 ・上記の写真は巣立って間もない幼鳥で、区内の森林で繁殖したようです。 ・幼鳥は成鳥と比べて羽毛の色が淡く、トレードマークである黒色のネクタイ模様が小さいのが特徴です。
<p>重要種</p>	<p>ヒガシニホントカゲ (都：CR+EN、国：－)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・日当たりのよい石灯籠の上で日向ぼっこしていました。 ・石灯籠は隠れ場所になっているほか、周りの樹林に餌となる昆虫類がたくさんいることで、貴重な生きものが生息しているようです。 	<p>ヤマトクロスジヘビトンボ (都：CR、国：－)</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・幼虫は清流でしか生息できないため、崖線から湧き出る湧水の流れる所に棲んでいたか、幼虫時に大雨で上流から流されてきたものがたまたま生き延びて成虫になったのかもしれない。

外来種	<p>アカボシゴマダラ（春型成虫） （特定外来生物）</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・白黒の縞模様の目立つチョウです。 ・春型成虫は白黒の縞模様ですが、夏型成虫には赤い斑点が混じります。 ・元々は中国にいたものが人為的に日本に放たれたといわれ、関東地方一帯で増えてきています。 ・エノキなどの植物を食べる在来種のチョウとの競合が懸念されています。 	<p>ブルーギル （特定外来生物）</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・神田川とはつながっていない池で見つかりました。 ・誰かが池に意図的に放したか、池に放したコイに紛れ込んでいたのかもしれない。 ・繁殖力が強く、在来種の魚類や水生昆虫類、水草等を食べてしまいます。
-----	---	---

＜重要種のカテゴリー＞

レッドリスト （東京都区部）※1	レッドリスト （環境省）※2	基本概念
絶滅（EX）	絶滅（EX）	既に絶滅したと考えられる種
野生絶滅（EW）	野生絶滅（EW）	飼育・栽培下あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧Ⅰ類 （CR+EN）	絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧ⅠA類（CR）	絶滅危惧ⅠA類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
絶滅危惧ⅠB類（EN）	絶滅危惧ⅠB類（EN）	ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅危惧Ⅱ類（VU）	絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧（NT）	準絶滅危惧（NT）	現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧Ⅰ類」に移行する可能性のある種
情報不足（DD）	情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種
—	絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの
留意種（*）	—	現時点では準絶滅危惧のレベルではないが、相対的に数が少ない種であり、容易に個体数が減少することがあり得るため、留意が必要と考えられるもの

※1：「東京都レッドリスト（本土部）2020年版」（東京都、令和3年3月）の区部に該当する掲載種

※2：「環境省レッドリスト2020」（環境省、令和2年3月）

＜特定外来生物＞

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（平成16年法律第78号）に基づき指定された種で、飼育・栽培・運搬・販売・野外への放出などが原則として禁止されています。また、被害のおそれが高い場合には、必要に応じて防除を実施することとされています。